

令和3年度第2回新潟市男女平等教育推進研究大会概要

1 日 時 令和4年2月16日(水) 15:00～16:30

2 場 所 オンライン会議

3 出席者 ※敬称略

(1) 委員(五十音順)

相庭 和彦	新潟大学大学院教育学研究科 教授
石山 友範	新潟市立新潟柳都中学校 教諭
内山 一敏	新潟市立黒埼中学校 校長
片山 恒	新潟市立南中野山小学校 校長
齊藤 綾子	にいがた女性会議 副代表
笹川 真由美	市民生活部男女平等参画課 課長
清水 美穂	新潟市立味方中学校 校長
菅原 友和	新潟市立小針小学校 教諭
中島 伸子	新潟大学大学院教育学研究科 教授
長谷川 瑞	新潟市小・中学校PTA連合会 副会長
林 なおみ	新潟市立豊栄南小学校 校長
本間 智絵	新潟市立女池小学校 教諭

(2) 事務局

山田 哲哉	学校支援課課長
三條 貴之	学校支援課総括指導主事
茂木 智弘	学校支援課指導主事

(3) 傍聴者

なし

4 会議内容

(1) 課長挨拶(山田課長)

現在、新型コロナウイルスが新潟県でも猛威を振るい、本研究大会もオンラインの開催となった。本来であれば、直接顔を拝見しながら、皆様の具体的な取組や話をお聞きしたいところではあったが、皆様のご健康とご負担を考え、オンライン開催とさせていただいた。

新型コロナウイルス感染症の拡大、第6波を迎え、学校現場は子どもたちの感染予防対策と学びをとめないオンライン授業等の準備・実施に必死に取り組んでいる。特にこの第6波の感染ウイルスであるオミクロン株は、重症化はしにくいものの、感染力が強く、従来以上に学校現場も強い危機感を抱いている。このような非常事態の状況下では、教師も子どもも、家族や地域の方々も男女関係なく、助け合い、支え合う姿勢が必要と考える。

今年度は、「第4次新潟市男女共同参画行動計画」の実施初年度であった。第4次では、「学習資料の活用率」とともに、「保護者啓発」の取組を重点項目とした。本日の前半では、推進委員の皆様の具体的な取組から学ばせていただき、後半では、相庭会長をはじめとする様々なお立場からの知見を基に意見交換をさせていただき、オンラインでも実りある大会にしていきたい。

(2) 会長挨拶（相庭会長）

第1回新潟市男女平等教育推進研究大会では、今年度から始まった「第4次新潟市男女共同参画行動計画」の重点項目「保護者啓発」の取組具体例について知りたいと意見が出された。そこで、第2回大会では、各校の具体的な取組事例を紹介していただき、今後どのような取り組みを行っていくとよいかを協議していきたい。

(3) 児童生徒用「学習資料」具体的な取組事例及び保護者啓発に関わる意見交換

① ■中学校2年生「ひとりひとりが活躍できる社会をめざして」

「学習資料」及び「新潟市男女共同参画推進条例リーフレット」等を活用しながら、対象学年の全ての学級で行った。授業後、どのような内容であったか、また、生徒はどんな反応だったのかを授業の流れに沿って学級通信を通じて、保護者へ紹介した。

Q 『男女の地位の平等感』について「男性が優遇されてるか」という問いに、多くの生徒が「されていない」と答えている。しかし、資料の世論調査では、多くの方が「男性が優遇されている」と答えている。この違いを知った生徒は、どのような反応したのか。また、この違いの要因は何と捉えるか。

A 生徒は、学校生活の中では、あまり男女の不平等感を感じていないため、驚いた感じだったかと思う。学校生活上の役割等については、不平等感はないが、社会に出た時の「男女の賃金格差」等の学習等に触れた際、その違いを感じるようになることもある。

Q 「保護者啓発」について、通信を通じて紹介しているが、その際、特別に働きかけていることやその後の反応等はあるか。また、発信の仕方として通信以外の方法は可能か。

A 配付時、また文の冒頭でもご家庭で話し合ったり、話題にしたりしていただきとお願いをしている。反応については、全体として把握はしていないが、個別に確認するとあるかと思う。

発信の仕方については、動画配信等で授業の様子を視聴できると保護者の興味も高まる。しかし、個人情報等の関係から全ての学級というのは難しい。可能であれば許諾の取れた授業風景を代表で視聴できるようにするのも一つの案である。

② ▲小学校3年生「自分らしさってなあに？」

「学習資料」を活用し、「らしさ」について、考える授業を行った。児童の潜在的に意識化している感覚等も浮き彫りになり、「らしさ」について考える良い機会となった。また、保護者には、授業内容や児童の記述を紹介すると共に、メッセージを書いてもらった。併せて、「学習資料」も持ち帰らせ、一緒に読むように推奨した。

Q 小学校3年生の性別への意識は、どの程度あるのか。

A 普段は、男女関係なく遊んだり、学んだりしているので、あまりない。しかし、着替えをする時に別室で着替えることから意識化することもある。

A 色や職業等、児童は普段は意識をしていないが、具体例を挙げて問うと、認識の違いや感覚の違い等が表出する。そういった意味では、意識的にこのような題材を扱って授業をすることは大切だ。

Q 保護者のメッセージは、提出を求められると理想的な内容にならないか。

A ある程度、それも想定している。ただ、敢えて理想的なことを書こうとするという行為も大切で、その意味でも価値がある。

③ ●小学校

- ・3年生「自分らしさってなあに？」

「学習資料」を使用し、色や遊び等について、男女の違いを児童に投げ掛けたが、男女の差等についての発言は少なく、「らしさ」の意識については、あまりない様子だった。授業後、道徳の授業と関連させて振り返りを書かせたり、保護者へ宿題として、「メッセージ」記入のお願いを書いてもらったりした。

- ・6年生「自分らしく」

「学習資料」を使用し、職業について考えた。総合的な学習の時間のキャリア教育とも関連させて、学習に取り組んだ。男女の違いによる違いを感じる児童は、少なかったが、家庭では「らしく」と言われた経験はあるという意見は出た。

Q 子どもの意識と保護者（親・祖父母等）の意識の差もあるのではないか。

A 学校生活の中での意識は、あまり男女による違いや「らしさ」の違いを感じにくいのが、家庭や大人との認識の差はある。同じ年齢の男女において、賃金の格差がある等、大人になるにつれて感じる感覚を大切に、このような格差を解消していこうとする意識を高めたい。

(4) 男女平等教育推進に関する意見交換

- ◇ 本大会に向けて、知り合いのお子さんのいる友人に話をした所、男女平等教育の取り組みの素晴らしい先生がいると通信をもらってきたが、その方が本大会の実践事例者で驚いた。
- ◇ 日頃、学校関係のサポートをする仕事をしているが、最近は男女関係なく、カラフルなランドセルをみるようになり、男女による色の違いも意識も変わってきているのを感じる。
- ◇ 社会人になった子どもに単純に「お父さんとお母さんは、どっちが大変に見えるか」を聞いてみたいと思った。なぜなら、ちょうどこの年代頃から学校での男女平等教育が行われるようになった時期だと思うから。

【男女平等教育とLGBTQの関係について】

- ◇ 着替えや日々の生活の中で、悩んでいる子どももいる。
- ◇ 制服の選択ができるようになってきている学校が増えている。
- ◇ 職員研修において、人権教育等、様々な場面でも話題として、先生方の目に触れる機会を増やしていく。

(4) 閉会のあいさつ（中島副会長）

本日の議論の中で、子どもたち同士の中で学んでいくことも大切だが、それを教えたり、働き掛けたりする大人の意識をどのように啓発していくかも考えていきたい。例えば、本日のような大会をもっとたくさんの方に聴いていただけるような工夫等である。また、今回使用している「学習資料」は、「夢」や「らしさ」にフォーカスしているからこそ議論が盛り上がり、大人（保護者等）等も巻き込んでいる。今後、様々な課題や工夫があると思うが、一緒に考えていけたらと考える。